

あおもり立志挑戦塾 成果報告

2009年6月11日





「知らないという事を知ることが出来た」



第1回：地域の自立と一村一品運動

(7/19～20)



前大分県知事 平松守彦 氏

地域の自立には、二つの目標があります。
一つは、地域の人々の懐が豊かになる、GNP社会。もうひとつは、自分の住んだところを豊かにして、そこで一生を豊かな気持ちで終わっていくGNS(グロス・ナショナル・サティスファクション)社会。GNP社会とGNS社会が両立する社会を作っていくことが地域の自立です。

皆さんが集まって考えて、その中で何を作って、そして地域をどうやって独立させるかを民の力でやっていく。これが私の提唱した『一村一品運動』の中核である。



第2回：壁を超える ～僕の立志挑戦～

(8/30～31)



ソロアルピニスト 栗城史多 氏

本当に今までいろいろと苦しんできましたが、一つだけ思うのは、自分がもうだめだとか、自分がもう死ぬんだと思ったら、これは本当に結果もそうになっていきます。いくら危険な状態になっても、高山病で苦しんでも、これを乗り越えたら、その次の新しいところに行けるとか、そういうふうに思わないとだめなんです。人間の思考というのは、やっぱり体とつながっています。気分が落ち込むと一気に体も落ち込んだりするわけです。

グループディスカッションでは、「次世代」や「挑戦」、「感謝」について議論した結果が報告されるなど、幅広さを見せていました。



第3回：「厳しさが人と組織を強くする」

(9/27～28)



元宮城リコー社長 富田秀夫 氏

まず、リーダーがやるべきことは、業績を直接上げるのではなく、組織風土をよくすることです。組織風土というのは、いわゆる闘う集団とか前向きな集団をいいます。そういう集団を作れば、自然と業績はついてきます。

摩擦は組織を活性化します。人を強くします。だから、嫌われるということを厭わないリーダーが必要です。

「組織の人間関係に関する課題や今後の可能性について」のテーマのもと、青森公立大学の先生方の助言を得ながらグループディスカッション。



第4回:町造りの志～大分・湯布院からの報告～

(10/25～26)



溝口薫平氏
大分県由布院温泉玉の湯会長

何か思いを持って一生懸命やれば、それを支えてくださる、後押してくださる方がたくさんいる。

やっぱりそこに、仲間、先輩、同僚、後輩という人間関係があって、初めてひとつのものができていくわけです。

若さは何物をも超えていく。若さの特権を最大限に出して、失敗したらもう一度取り返せばいいんです。若い人たちには、挑戦していく心意気を持っていただく。そしてやはり、こだわりを持つことです

「地域におけるビジネス展開の課題と将来展望」。「株式会社あおもり」を設立した想定での課題とその解決策に関する提案や自分たちの当たり前をビジネスチャンスとしていく取組の提案、地域を特定したビジネスと仕組みについて提案がありました。



第5回:「北の炎」と題して

(11/22~23)



作家 高橋克彦 氏

ふるさとを知ることがすぐに色々な成果に結び付くとは思わないけれども、自分が生まれ育った故郷、土地に対して誇りを持たない人は、たぶん何もできない。形としてはできるかもしれないけれども、本当に深いことはできないと思います。

十年、何かを続けるためには好きでなくてはいけない、好きなものは必ず物になる。それが自分の人生で学んだ最も大事なことです。

高橋氏の講話を足がかりに、自由にテーマを設定するという状況のもと、それぞれ「出会い」「地域と浮世絵」「ふるさとを知る」をテーマに発表があり、地域を知ること、それをビジネスにして行く事の重要性が述べられました。



第6回：「地域の地域による 地域のためのオールタナティブ」

(12/13～14)



(株)展勝地社長 軽石昇 氏

私にとって大切な場所、展勝地にレストハウスが建てられ、その経営を中央の大手に頼むという情報を得ました。その時、私はそれでいいのかと思い、様々な方に訴え、北上の大手経営者達を巻き込むことに成功しました。

何かをやるときに、できる人とできない人の組み合わせをしてもらいたいと思います。「あいつは分からない奴だな」という奴を必ず入れてほしいのです。企画をするという時には、全部その人達が力を合わせますから、非常にいい企画になります。

事業を実現する「人間力」「地域づくり」をテーマに発表があり、人を巻き込む力や、塾生の力や住民参加型の地域づくりに向けた考えが述べられました。



塾長の心に残った言葉...

- 「人と自分を比べるな、比べるならば、過去の自分と比べろ。」
- 「成功の反対は失敗ではなく、失敗と言う結果が残ったという事であり、成功の反対は、何も目指さない事。(動き出さないこと)」
- 観光とは、国の光を観ること。つまり、その国の良いところを観ることだ。



- 大学やお役所に、新しいものを考えさせてもダメだ！もっと、人の集まるところで、自由に議論を交わしながら自然に沸いてきたものでなければ、良いアイデアは生まれない！
- 「塾生は清廉潔白である必要は無い」「したたか」に生きる。
- 人はだな、金銭的な誘因よりむしろ非金銭的な誘因により多くの魅力を感じるものなんだ。



全6回の塾を通して



あおもり 知事挑戦塾

知る『事を

続けよう！

